

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人 昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5861		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して丸2年が経ちましたが私達職員一同開設時と変わらない気持ちで当ホームの理念の想いの通り、“あなたらしさ”を大切に寄り添う支援を忘れずにこの1年生懸命頑張ってきました。また同敷地内の特別養護老人ホーム悠清苑の協力体制の下、職員間で支えあってまいりました。御利用者の皆様には、自由に束縛しない環境でそれぞれの想いを大切にケアをし、御家族の方には安心してそして自由に面会をして頂き、何時までも一緒に過ごして頂く様に配慮しています。立地的に閉鎖的な条件ではありますが、ホームに引きこもらない様に必ず地域のイベントの参加やドライブ・散歩等で地域の方との交流をもち、職員も又、地域のイベントの準備から片付けに積極的に参加し、地域住民としての役目を担う様に努めています。これからも御利用者・御家族の満足のいくケアは、もちろんのこと職員の働きやすい環境でサービスの質の向上を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である特養に隣接するホームは、周辺は温泉旅館という立地条件の為、外に目を向け積極的な交流促進に取り組んでいる。入居者は編物やチラシで作品を作ったりと日常生活における介護支援に加え、「生きがい」を持った生活は生き生きとしており、一人ひとりの特性や個性を尊重した細やかな支援は理念である“らしさ”を引き出した成果であると言える。運営推進会議を通しホーム運営のありかたや昨年度の外部評価結果及びケース記録等全てを家族に開示したり、毎月の担当職員による手紙と写真の送付は家族からも好評を博している。“人はたから”と語る管理者をリーダーに、経験豊かな職員は“まかせて安心”のホームを目指し、住み心地の良い生活に家族・職員のチームケアで取り組んでいる。地域とのつながりを大切にした姿勢は入居者のみならず近隣住民の緊急時対応にも表出しており、地域福祉の向上に今後も大いに期待されるホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年11月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている y 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を玄関や掲示板やスタッフルームに掲げ、御利用者の想いや生活を“らしさ”を大切に、職員と共に確認し、意識付けている。	開設時に掲げた理念は職員のケア規範として浸透し、運営方針の地域や家族との結びつきを注視したケアの実践となっている。玄関先の掲示は訪問者への啓発となり、スタッフルームに大きく掲げることで意識付けとし、勉強会で理念に即して話し合い意識向上を図っている。入居者の“らしさ”“あたりまえの生活”に職員の寄添いのケアが温かみのあるホームを作り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・今年も地域の行事には必ず参加し、地域のつながりを大切にしてきた。職員も行事の準備や片付けにも積極的に参加した。	ホーム周辺は旅館街と民家が少ない状況の中で、このホームが出来ることは地域へ出かけることであると入居者と一緒に積極的に地域の中に出かけ交流を図っている。開所時より小学生との交流(わくわくクラブ)の継続や地域住民からの情報により草刈に参加したり、小国町が推奨する“美しい村”作りに賛同し年4回空き缶拾いを自主的に行う等地域の一員として活動している。	近隣住民の緊急時に駆けつける等地域住民にとっても心強い事業所であり、地域とのつながりを大切にしたい取り組みが推察される。今後も近隣住民の健康相談等職員の持つ看護・介護力の発揮に大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会を行なうことで事業所の内容や認知症の方に対する理解が得られてきていると思う。また、広報誌を通して認知症になっても安心して生活できる居場所があるということ浸透してきていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会は、必ず偶数月に行い、入居者生活状況、活動状況を報告している。御家族の方の参加は交替で3~4人で行って頂き、同時に委員の方からの意見も頂き、サービスの向上に努めている。	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は行政、社協、老人会長、民生委員、消防団、家族と毎回多くの参加者で開催している。入居者状況や家族・地域との交流を説明し、自然災害対策や委員・家族の要望等にも耳を傾けながら積極的な意見交換がなされている。外部評価結果も全員に配布し、目標の達成状況を説明し、不参加の委員や家族には外部評価結果・議事録を送付し情報の共有化している。議事録より透明性のあるホーム形成であることが窺われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村の担当者の方には、必ず運営推進委員会に参加して頂き現状報告を伝え、また以外でも何かある時は窓口や電話にて連絡し、協力関係を築いている。	行政担当者の毎回の運営推進会議への参加時や日頃から情報交換や相談に出向き、協力関係を築いている。管理者は社協の理事として地域福祉にたずさわわり、高齢者福祉の向上に行政と連携して取り組んでいる。	管理者は行政に認知症サポーター研修の開催を提案されており、職員の専門性を発揮し行政と連携した取り組みに企画・参画されることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の勉強会を行い、職員に意識付けをしている。玄関は施錠せず、一人ひとり自由に過ごして頂くために職員の見守りを徹底し、安全を確保している。	法人全体での研修会やホームの勉強会等定期的に開催し、拘束の内容とその弊害について全員に意識付けしている。職員は施錠・スピーチロックを含め、拘束の無い生活が当たり前である共通認識であり、外出傾向には一緒に散歩に出かける等見守りと所在確認の徹底により自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待の勉強会をもち、職員の知識を深め、職員の士気を高めている。また、御家族とのコミュニケーションをよくとり、家族と利用者との関係性を捉えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在のところ該当する対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を実施して職員の知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書や重要事項説明書に従い説明を行い、特に不安な点や疑問点については、わかり易く説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・法人の広報誌を1年に4回発行していますので必ず福寿苑のコーナーを設けて掲載している。また、1年に1回家族会を開催したり、運営推進委員会でも常に御家族の方交替で3～4名参加して頂いて意見を聞かさせて頂いている。また、意見箱も設けている。	職員は日々会話を通して不満が無いかな等を聞いたり、言動・表情から推察している。担当職員により毎月手紙と写真を家族に送付し、文書やTELで満足度を聞き取りしている。又、運営推進会議や家族会が問題提起の場となり、家族の思いや提案をケア向上に反映させている。契約時に苦情相談窓口を説明し、第三者委員を明示している。	運営推進会議や家族会等多くの家族の参加があり、アンケートでもホームへの信頼感・安心感が高いことが窺われる。今後も家族同士の話し合い等を家族会の中に作り、更に家族の忌憚りの無い声がホーム運営に活かされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・業務改善会議を年に3回行い、職員の意見や改善策を取り組んでいる。	管理者は日々職員とのコミュニケーションに努め、毎月勉強会や業務改善会議(年3回)による職員の意見や提案をホーム運営に反映させている。業務分担の確立に職員の意見を聞きながらコミュニケーション中であり、働きやすい職場環境に全員で取り組んでいる。管理者は個人面談を行ない、“チャレンジシート”に個々が行動目標を挙げる等モチベーションを高める工夫をし、外部研修に輪番で参加する等人材育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個人面談を年に1回行い、目標や評価にて個々の業務に関する取り組み状況を確認し、各自の意見を聴いて働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・苑外研修には、積極的に参加している。職員の力量を見極め、実践者研修やリーダー研修に参加し、職員育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡協議会には、必ず参加し、情報交換を行なっている。今年、県内地域密着型サービス研修会が阿蘇郡市担当であったため、同業者の方との交流する機会が多かった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に必ず、御利用者の方と御家族の方に面会し、状態把握に努めている。御利用者・御家族の想いに向き合い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・グループホームの内容を説明し、初回は時間をかけてコミュニケーションをとり、御家族の不安を解消し、要望や想いを必ず聞き、信頼関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や御家族の必要としている支援をしっかり話し合い、他の必要なサービスがあれば地域包括支援センターや行政等への連絡する等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の今までの生活を重視し、職員と共に生活することで、本人の想いや本人のできている事に気づくことができた。本人の生活ペースを大切にしたい人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・御家族には、担当者からお手紙を定期的に入れて(写真も同封)日常生活の様子をお伝えし、送迎が必要であれば職員が送迎して自宅まで外出援助を行なっている。家族との絆を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の行事には必ず参加し、地域の方との交流をもち、行きたい所会いたい方がいれば送迎をし、付き添いをしている。(お墓参り、法事、高塚参拝等)	今年度は口蹄疫の関係で町の行事が中止になっているが、入居者の昔から通いなれた場所をリサーチし、神社参拝やどんどや見学、墓参、法要への参加等家族の協力のもと支援している。入居者個々の地区の小学校の運動会へ出向いたり、外出が困難な方には自宅への送迎によりゆっくり過ごしてもらう等関係性の継続に努めている。入居者の姑から引き継いだ“おくまさんまんじゅう”は婦人会へ伝承し、郷土名物として親しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりができる役割をして頂き、決して無理強いはしないように配慮している。共に生活をしていく中で職員が仲に入り、御利用者同士が支えあっている関係になっていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・これまでの退居後、同敷地内の特養に3名転所されたケースがあり、引き続き連絡を取り合っています。また、長期入院にて退居になられた方の御家族にも状態を伺いながら何か力になれないかと努めています。(退居された利用者の御家族から訪問に來られ野菜を持って来てくださったりして交流を持っています。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・御利用者第一に“らしさ”を大切に想いを聴き、本人の意向に沿ったケアに努めている。例えば、帰宅願望が強くどうしても落ち着かない時、決して否定せず外に出て散歩やドライブをして気分転換を図る配慮をしている。	入居者一人ひとりの特性や個性を把握し、その人らしい暮らしを支援するため、日々のコミュニケーションや意思を尊重し「生きがい」を見出し、寄添いのケアを心がけている。「家に帰りたい」との希望と一緒に出かける等本人本位の生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時の生活歴やアセスメント、センター方式を取り入れ、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常生活の中で又、毎日のケース記録やケアプラン・モニタリングを勉強会で話し合いをもち、入居者一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプラン作成にあたり、ケアマネが中心となり、本人の想いを理解し、家族とのコミュニケーション、また職員間での話し合いの中で一人ひとりの個性を重視し、ケアプランを作り上げている。	ケアマネジャーが本人・家族から意向を把握しプランを立案し、日々のケース記録やモニタリングを毎月カンファレンスで検討している。毎年再アセスメントし、半年での見直しの他、心身の状態変化に全員で見直し現状に即したプランを作成している。要介護者の問題や家族も含めたプログラムは詳細であり、ケース記録を家族に開示したり、本人や家族の満足度を毎月聞き取りしプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人のケース記録やカードックスに毎日の身体状況や連絡気づいた事等で職員間の情報を共有し、ケアプランの見直し評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別に応じたニーズに対し、職員が対応している。例えば、墓参りや法事、買い物、美容室等の送迎付き添い		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域交流会や地域のイベント、小学校中学校高校のボランティアや実習の受け入れを通し、地域の人との交流を深め、文化や教育機関と協力体制をとり、御利用者の生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診(月に1回)とは、別に必要時専門の病院に受診したり(必ず搬送)、歯科は訪問診療があるので希望時診て頂き、先生から口腔内の指導を受けている。	入居者・家族の希望のかかりつけ医とし、協力医への毎月の受診や他科受診を支援し必要時は家族にも付き添って貰っている。バイタルチェックの徹底による異常の早期発見に努め、定期受診簿による情報の共有化や訪問歯科による診察・口腔ケアのアドバイスを受けるなど適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・受診の内容や投薬の内容等、介護職にわかり易く情報を提供している。介護職から利用者の方の体調や気づいた事など毎日の健康チェックなど把握し、ナースに伝えている。(GHのナースが不在な時には特養のナースが協力体制をとっている)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、職員が交代で面会に行き、御家族から情報を得ている。また、医療機関とは協力医療機関としての契約を結んでいるのでスムーズに情報交換ができ、また退院までの経過を主治医に聴き、退院時の受け入れ体制を常に整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・法人全体で“看取り”の苑内研修を行なっているが現在ホームでは、体制的に(看護師1名)困難であるため、御家族の方にホームで出来る事と出来ない事を説明している。御家族からも同じ敷地内の特養の入居を希望されるため、入居時同時に特養の入所を申し込んで頂くようにしている。	契約時に重度化・終末期の対応に付いてホームでは医療的な処置が出来ない事等を説明しており、隣接の特養を申し込んでいる入居者も居られる。最高齢97歳という高齢化は否めず職員は看取りの研修に参加したり、救急救命法等の指導を受けケア向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全職員が「救急救命法」を阿蘇広域消防署からの指導を受けている。緊急時や事故発生時マニュアルを整備し、職員に周知し、勉強会も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法人全体で年2回の阿蘇広域消防署の指導を受け、合同の避難訓練を受けている。夜勤一人体制なので特養との協力体制を整えている。また、今年は地震、水害の避難訓練も行った。運営推進委員に地元の消防団部長さんに入って頂いているので必要時助言を頂いている。	隣接する特養ホームと合同で年二回の避難訓練と毎月防災教育を行っており、危機意識の高さが窺える。今年は目標達成計画に掲げた「水害・地震に対する避難訓練」の総合訓練を実施し、避難場所や地域の消火栓等の再確認をしている。備蓄を準備し半年毎の点検を行っている。	運営推進委員でもある地区消防団部長からの助言を受けたり、ホームの自動通報装置で消防団との連絡体制が図られており、今後地域の防災の拠点として地域との協力体制の確立に期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は、御利用者のプライドを気づけないように言動には十分注意をしている。居室に入る時は、ノックをしたり声をかけたり、プライバシーの確保に留意し対応している。	親しみを込めた方言の中にも年長者に対する丁寧語に心がけ、入室時のノック・声かけや入浴・排泄時の羞恥心への配慮を行っている。職員の行動指針を掲示し優しく見守るケアの実践に努め、傾聴やアイコンタクトで接する支援を確認した。個人情報保護規定や守秘義務の周知徹底を行い漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の想いや希望がうまくだせる様に苑内の雰囲気作りに努めている。職員一人ひとりが利用者の方自身が決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・役割があってもその方の心身の状態に合わせ、決して無理強いくことなく、本人の思う様に自由に過ごして頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・特別なイベントがある時は、お化粧をしたりお洒落な洋服を着たりとその人らしい身だしなみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・嗜好調査を行い、食べたい物を聞き、食事の楽しみを味わって頂く。外食時は、好きな物を選択してもらい、食事の準備や片付けはできる方に役割をもって頂き、職員と共に行なっている。	毎年嗜好調査を実施し、食事担当職員がその日の献立を作り、地元の商店やスーパーを利用し食材の購入を行い調理している。入居者は食器洗い・拭きなどを一緒に行い、唯一の男性入居者はボードに献立を書いたり個々の役割分担が自然に出来てきている。誕生日の家族招待の食事や外食などは楽しみの支援に繋がり、職員も一緒に同じ物を食し和やかな食事時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量や水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態に応じた量や食事形態を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔のケアは、できる方には声をかけをし見守り、介助が必要な方には援助をし口腔ケアに努めている。協力医の歯科の先生から指導を受け、毎年1年に1回の「口腔ケア」の苑内研修も行い、協力体制をとっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄のリズムをつかみ、サインを見逃さない様に見守りを重視し、援助している。夜間はナースコールや足踏みセンサーで対応し、自立に向けた支援に努めている。	自立に繋げる支援内容をプランに取り入れ、見守りを中心に声かけ誘導を行っている。トイレ付きの居室での支援や失敗時の下着入れにバケツを用意する等自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給を十分にとること、またヨーグルトや牛乳やオリゴ糖、繊維の多い食品を摂る事に気をつけている。また、運動(散歩や体操)にも心がけている。それでも便秘する時には、主治医に相談し、下剤を処方してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日入浴を行なっているがその方の体調に合わせている。脱衣所は音楽を流したり、ゆったりとした気分で温泉入浴をして頂くようにしている。衣服の着脱や洗身ででき事は見守っている。	ホームの地域性を活かし温泉が引かれ、広い浴室で個々に応じ毎日支援できる体制をとっている。季節風呂(ゆず湯)を楽しんだり、入浴と食事を兼ねた温泉施設への外出などゆっくりとくつろげる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣を大切に、休みたい時間に休んで頂き、休めない時にはお茶を飲みながらお話を聞いてリラックスして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容は、わかり易くファイルに綴っており、各職員が見れる様にしている。ナースが管理して、与薬時は責任者を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節ごとの行事を計画し季節感を味わってもらおう。お誕生会には御家族に来苑して頂き、一緒にお食事をしてお祝いをして頂く。一人ひとりの生活歴を把握し、負担にならない様な役割を生活を楽しみながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・近くの散歩は、天気の良い日に出かけたり、買い物には交替で出かけている。また、お弁当や外食を兼ねてドライブしながら戸外に出かけている。	近隣の散歩や隣接施設での行事参加、季節の花見やドライブ時には弁当持参・外食を兼ねるなど数多くの支援は、「家ではできない事」と家族からも感謝の声が寄せられている。食材の買出しに出かけた際に別施設の友人を訪問するなど個別の支援も行い入居者の希望に応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣いを自分で管理される方、事務所で預かっている方とありますが希望があればいつでも使える様にしている。買い物などで使える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は御利用者の希望通り、自由にやりとりできる様に支援している。また、年賀状や暑中見舞い等自分で書いて頂く様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングのテーブルには季節のお花を飾り、明るく清潔感のある居間に心掛け、何時までも居たくなる様な居心地の良い共有の居間になっている。玄関の外内には、日向ぼっこができるように長椅子を設置し、トイレや脱衣所や風呂場は車椅子の方でもゆったり入れるようにしている。	和室には阿弥陀如来像を配した仏壇に毎日ご仏飯やお茶を上げ心の拠り所とされ、開放的な窓からは自然豊かな四季の移り変わりが楽しめる。ホーム内には季節の花や職員手作りの作品が飾られ、玄関で出迎えてくれるおしゃべりなセキセイインコや金魚も癒しとなっている。玄関先には入居者のこれまでの歩みを写真に撮り個別アルバムを設置する等入居者と家族とのコミュニケーションツールとして活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングには、食事用の椅子とくつろぎ用のソファを設置し、和室の居間には掘りごたつでゆっくり過ごせる様に個々にあった居場所作りを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の過ごしやすい様にベッドの配置を変えたり、本人の生活状況に応じ、畳やコタツ等の配置をしたり、本人にとって居心地のよい環境になるように心掛けている。	掃除の行き届いた居室は、掃き出し窓でゆったりと造られている。写真や趣味の編み物、小物作りの材料などを持ち込み自分らしく落ち着ける工夫がされている。フローリングに畳を敷きコタツを置いたり、心身の機能に応じたベッドの配置等家族の協力のもと職員の観察力を生かした住みやすい環境を作っている。各居室は自分で作った作品をネームプレート代わりにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室がわかり易い様に本人の目線に合わせてプレートを付けたり、トイレの場所がわかりやすいように職員が書いて表示している。		